

ヤラ荷ヒタルゾ、不審サヨト有シ所ヘ、吉田六左衛門御弓仕リタリトテ差上ルニ、御心ニ叶ヒケル故、早々召出サレ、只今、城下ヲ見ルニ、馬ニテ弓程ノ物ヲ荷ヒ來リシハ汝ナリヤトノ事ニ、私ニテ候ト答ニ、家來ハ持ザルカ、自身馬上ニテ荷ヒタルハ如何ト尋子給ヘバ、サレバ御調度ノ第一ニシテ、御手ニ取ラル、器故、爭デ下々ニ持セ申スベキト申上シカバ、別シテ感賞有テ、雪ヲ荷ヒタル形氣面白ケレ、號ヲ下サルベシ逆、雪荷ノ二字ヲ給ヒシ故、以來、雪荷ト云一流ヲ立ル、吉田一族ノ内ニテ、弓ノ上手也。

〔桃源遺事〕西山公、御諱光圓、○中日新齋、又常山と稱せられ、或は卒然子、又梅里と號せらる、は吳里
伯の泰伯之墓地之名也、素より泰伯な御墓ひ遊れし故、と聞し

〔閑散餘錄〕徂徠ノ號ハ、總州ニ往來ノ里トイヘルアリ、ソノ地名ヲ以テ號トセリトナン、

〔先哲叢談〕物茂卿

徂徠之在胎也、母彌月夢遇歲首以松枝插門、寤而生徂徠、故名雙松、後有所避、以字行、徂徠號、取之詩魯頌徂徠之松、一說其少時好雷、故自號蘇雷、而上總有往來里者、因改書爲徂徠字、署三河物茂卿者、其先三河荻生人物部守屋後也、本集有擬家大連檄文、及送秀緯序、秀緯與余同姓、系大連、故以其字氏之言、雙松字、未審何所譯、或曰、避德松君、或曰、徂徠之仕於柳澤侯也、正親追號雙松院、因避其名、

〔縣居集〕寶曆十四年の秋、はま町といふ所へ家をうつして庭をのべ、または畑を作りて、所もいささかかたへなれば、名をあがたるといひて住始ける、

〔うけらがはな〕賀茂翁家集の序

そもそも大人の遠つおやをたづねるに、賀茂のあがたぬし、成助のすゑにて、○中眞淵といへるみ名は敷智の郡の名よりおもひよりてつきたまへりとぞ、あがたるとは、うつせみの世にませし時、庭を田ゐのさまに作りて、かも氏のかばねにもよしあればとて、みづから家の名におほせ